V 避難所感染症サーベイランス※の実施方法

※調査監視のこと

- ◎ 避難所で毎日の感染症の発生の有無（発熱・嘔吐・下痢などの症状）を確認し、報告することにより、市町村及び保健所で状況を把握し、感染症を早期に探知することができます。（発生0でも報告いただくことで、何も起きていないことが分かります。）発生があった場合、速やかに医療救護チームや市町村保健師等が介入・対応することにより、避難所内での感染症のまん延を防止することに繋がります。探知した当日のうちに対応できるよう、報告は原則、午前中としております。

1 報告ルート・役割（※今後、見直しや発災時の状況によって、変更する場合があります。）

（1）避難所管理者

- ・症状がある場合は避難所職員に報告するよう、避難者に予め周知(参考資料1)してください。
- ・定刻に避難者の健康状態を確認し、情報ツール*等（別添2）により市町村及び管轄保健所へ報告してください。
- ・集団発生や重要な事例（風疹、麻疹など1例でも対応が必要）など緊急の場合は、いずれの方法でも電話で市町村等に連絡してください。

* 避難者名簿の作成、朝食配布時等での健康状態の確認、巡回の医療職者との情報共有・連携が必要。

* 情報ツールは、発災時に活用可能なシステムです。

例：D24H（災害時保健医療福祉活動支援システム）

* 紙媒体（別添2：施設・避難所等ラピッドアセスメントシート）で報告する場合、別添2の下線以下の内容は必須です。

* 情報ツールで報告した際は、紙媒体は不要です。

- ・体調不良者用避難所又は隔離スペースで療養している者の健康管理は、（別添3）を適宜使用し、定期的実施する。その結果は、医療救護チームや市町村保健師等に報告するとともに、対応を検討する。

（2）保健所

- ・避難所毎の情報を情報ツール等で確認する。紙媒体時は、感染症情報センター（衛生研究所）へ報告する。

（3）感染症情報センター（衛生研究所）

- ・情報ツール等で、共有された避難所情報をまとめ、疾病対策課へ報告する。

2 報告方法

情報ツールが活用された場合は、原則、午前中に入力を完了する。また、紙媒体での報告は、FAX・メール（携帯電話を活用し写真を添付したメールでも可）・電話等状況に応じ可能な方法で行う。

3 情報の還元

(1) 感染症情報センター（衛生研究所）

- ・情報ツール等から感染症の発生状況をまとめ、疾病対策課へ報告する。
- ・必要に応じ、ホームページに掲載する。
※ホームページ掲載の際は、原則定刻に更新（休日は必要に応じて更新）

(2) 疾病対策課

- ・(1) で報告があった情報を保健所、市町村へメール等で周知する。

(3) 市町村

- ・届いた情報を避難所へ還元する。

4 災害時感染制御支援チーム（DICT）の要請

(1) 感染症情報センター（衛生研究所）・保健所

- ・被害が甚大で、各所属が行う情報分析、避難所等の疫学調査及び指導に関し、感染症予防対策に係る専門的な技術支援が必要な場合は、災害時感染制御支援チーム（DICT）の支援を疾病対策課に要請する。

(2) 疾病対策課

- ・被害が甚大で、感染症情報センター（衛生研究所）で行う情報分析や、保健所における積極的疫学調査及び分析に関して、感染症予防対策の専門的な技術支援が必要になった場合や、関係機関から要請があった場合は、県保健医療調整本部に諮り、感染症に関する知見を有する医師、看護師等からなる災害時感染制御支援チーム（DICT）の支援を要請する。